

謎の多い縄文時代晩期末〜弥生時代前期

弥生時代Ⅱ稲作？

弥生時代といえば、日本列島に稲作が伝来し、農耕文化が誕生したというイメージが強いです。このイメージは、茨城県においても決して間違っているのですが、小美玉市では、少々状況が違います。

空白の500年

市内全域を対象とした分布調査は行われていませんが、旧玉里村で実施された分布調査や、これまでに市内で行われた試掘確認調査や発掘調査の成果を見ると、縄文時代晩期、特にその後半期(今から2500年ほど前)になると、遺跡が皆無となります。

そして、その状態は、弥生時代前期(今から2000年ほど前)まで続きます。実に500年ほど、小美玉市に人がいない時期があるのです。何故でしょう？

人口減少の謎

人口減少は、縄文時代後期(今から4000年ほど前)に始まり、この頃、寒冷化が始まり、海退(海が退く)といつて、海岸線が遠く現象が起ります。これにより、内海だった霞ヶ浦は汽水域となり、それに伴い生態系も変化します。

要は、豊富な海産資源が取れなくなり、食料資源が枯渇していくのです。

ミスティアスな時代

弥生時代になると、東海系を始めとした西方の土器が、千葉県などで出土しています。そのことから、稲

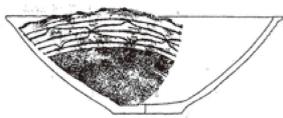
作が伝わったかどうかはともかくとして、コメやイネの情報は、東関東にも届いていることが分かります。

ただ、小美玉市はその時も、まだ無人の状態です。再び人が住み始めるようになるのは弥生時代中期になるのを待たねばなりません。

その原因は、何だったのか。弥生時代中期になって、どうやって人が住めるようになったのか。

小美玉の歴史の中でも、最もミスティアスな時期が、縄文時代晩期末から弥生時代前期といえます。

(小川資料館 小玉 秀成)



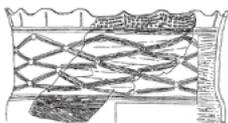
荒海1式土器



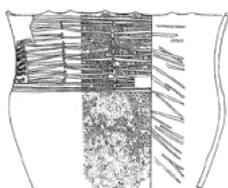
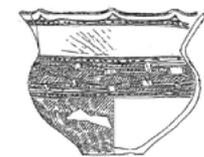
荒海2式土器



荒海3式土器



荒海4式土器



企画展「^{あらかみ}荒海式土器 - 東関東最古の弥生土器 -」

茨城や千葉を中心とした東関東に分布する、荒海式土器を展示する企画展を開催します。謎多き時代・時期の土器を、この機会にぜひご覧ください。入館料は無料です。

日時 3月20日(金)~5月10日(日) 9:30~18:00

休館日 月曜日(5月4日を除く)、3月31日(火)、5月1日(金)、7日(木)

場所 小川資料館(小川図書館2階)

問 小川図書館・資料館 ☎ 0299-58-5828